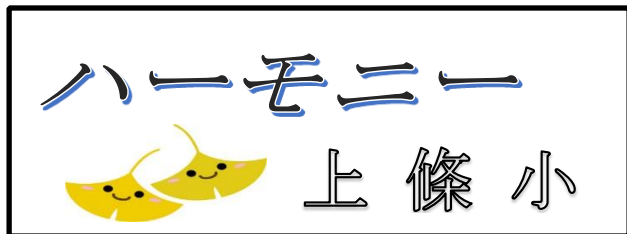


HP 版



校長室だより No. 13
(平成 28 年 11 月 16 日)



泉大津市立上条小学校
校長 松田 義広

<http://izumiotsu-ed.jp/e-kamiyo/hp/>

ホームページが、まもなく 48000 アクセスへ。

立冬を過ぎ、落ち葉が校庭を彩る季節となりました。

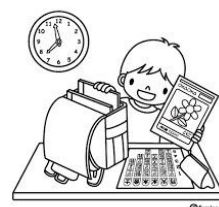
さて、7日に地震を想定した避難訓練を行いました。避難開始から素早い行動でプール前に集合できました。先日のオープンスクール時にも地震が起きましたが、事前に予測することは難しいです。しかし、被害を少なくすることは訓練によってできるはずです。本校は、地域の津波避難場所でもあります。災害時に冷静な行動ができるためにも、自然災害についての学びと避難訓練を重ねていきます。

さて、連合音楽会(16日)、休日参観(20日)や手作り大会(29日)等の行事が毎日のように続いています。行事への取組みを通じて、子ども達の成長を見られることが楽しみです。



スタートカリキュラムについて

本校は、中学校区連携を大きな柱として推進しています。その1つとして本年度アプローチカリキュラム(就学前)からスタートカリキュラム(1年生当初)への円滑な移行について研究しており、平成29年度より、就学前施設での「学びのめばえ」の時期から小学校での「学びの基礎を培う」の時期・「自覚的な学び」の時期への接続を実施して



いく予定です。それによって、就学前からの接続期における段差「子ども自身が感じる困り感」を軽減し、スムーズな小学校生活が送れることや、学びへの接続による学習意欲の向上等が期待されます。すでに、かみじょう認定こども園の協力のもと、5歳児と1年生の交流を行ったり、大学の先生の助言によるカリキュラムの検討を進めたりしています。

同じように小・中連携、小・小連携においては、今年度(今の中学1年生)より条東小学校と共に春休みの宿題を課し、小津中学校への「学びの継続・連続」をめざしています。また、昨年度まで6年生対象に行っていた本校での出前授業を今年度は小津中学校で行います。ここ数年の算数・国語・英語の小津中学校からの専科教員の取組みもその1つです。

このように子ども一人ひとりが、就学前施設から小学校、小学校から中学校の段差を少しでも感じることなく、集団生活で個性が発揮できるようサポートできればと思います。

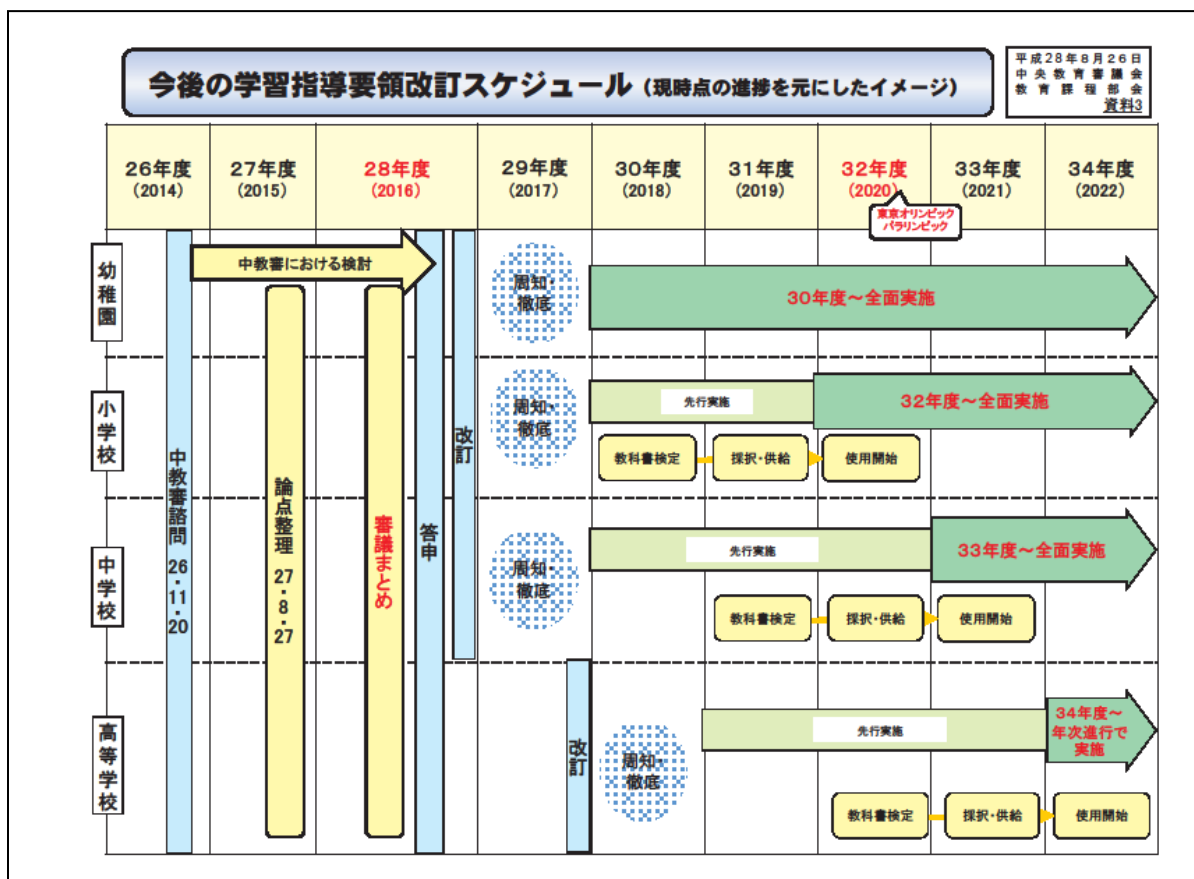
きんき教育文化財団より図書の寄贈

15日(火)の児童朝礼で、きんき教育文化財団より寄贈された図書の紹介をしました。子ども達の興味・関心の高い本や調べ学習の参考になる本 59冊を寄贈していただきました。大切に、そして、有効に活用していきましょう。



学習指導要領改定スケジュール

平成32年度より新しい学習指導要領が全面実施されます。(下図は文科省のイメージ) 外国語・道徳・アクティブラーニングなど様々なことが話題にのぼっています。本校といたしましては、児童・保護者皆様の不安なく実施できるよう準備して参りますが、順次、平成32年度全面実施に向けて移行措置が行われます。一部、先行実施の研究も始めています。



裏面に続く

平成28年度全国学力・学習状況調査について

4月19日(火)、6年生を対象に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校概要をお知らせします。

本調査だけで、子ども達の学力や学習状況の全てがわかるわけではありません。しかし、1年生から5年生までの積み重ねをもとに、6年生当初の本調査は、懸命に取り組んだ結果、『たいへん良くできました』と言えるものと思います。また、2年連続して改善傾向にあることは学校力が向上してきたと言えます。

その要因としては、次の項目が考えられます。勿論、保護者の皆様の本校学校教育へのご理解・ご協力が根底にあります。また、地域の皆様も力強く支えてくださっています。まさに伝統校の強味です。

- ・勉強に素直な態度で意欲・関心を高く持ち、学年が上がるごとに落ち着き、学習に向き合う環境を整え学んできたこと。
- ・宿題を真面目に取り組むだけでなく、自主学習ノートなどにも積極的に取り組んだこと。
- ・学校全体で取り組んできた「ぐんぐんプリント」などで、基礎学力(漢字・計算)が定着していることや「問題解決型学習」などで、より深く考える力・書く力を養ってきた成果が現れたこと。
- ・最後まであきらめず取り組む姿勢や、やればできるなどの自己肯定感が高かったこと。
- ・学習を支える体力があり、健康に留意できていること。

国語A区分(主として「知識」)について、国平均を大きく上まわりました。学習指導要領の領域等での「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のいずれも全国平均を上まわりました。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が高かったです。今後の課題としては、説明文・物語文・新聞などを読んで段落ごとに小見出しをつけたり、要約したりする力をつけることがあげられます。

国語B区分(主として「活用」)について、国平均を上まわりました。学習指導要領の領域等での「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれも国平均を上まわりました。今後の課題としては、表やグラフを読み取る力をつけるために、社会や理科などの他教科でも意識することや語彙力を高めるために、紙媒体の辞書を活用したり読書量を増やしたりすることが考えられます。ただし、国語A・算数A・算数Bに比べても、いっそうの努力が求められます。

国語は、高い改善傾向が認められますが、「400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことが難しい」、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しい」と回答した児童が、全国と比べ高くなっており、書くことを得意と思っていない傾向があります。

算数A区分(主として「知識」)について、国平均を大きく上まわりました。学習指導要領の領域等での「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」のいずれも国平均を上まわりました。

た。特に、「図形」の正答率が高かったです。今後の課題としては、苦手と思われる「割合」の単元を習熟するためにも国語力(読解力・イメージ力)をつけることが大切です。

算数 B 区分(主として「活用」)についても、国平均を大きく上回りました。学習指導要領の領域等での「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」のいずれも国平均を上まわりました。今後の課題としては、立てた式を他の人に説明できる力や難解である「1 あたりの量(単位量)」を深く理解することが求められます。

算数は、点数においては基礎・応用共に高い改善傾向が認められますが、「算数の授業の問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童が、全国と比べ低くなっており、ノートに書く時に工夫が必要であり、国語と同様に書くことへの抵抗感(苦手意識)を持たない努力が求められています。

以下が学習状況調査について、全国と比べての本校の傾向となります。

- ・朝食の摂取率、起床・就寝の時刻については、達成できていない割合がやや多いです。
- ・自己肯定感は引き続き高いです。
- ・携帯機器やテレビゲーム、テレビ等の使用時間については、少ないです。
- ・家庭学習については、平日及び休日共に時間が、全国比同等または多くなり、自分で計画を立てて勉強ができるようになってきています。さらに、家の手伝いもしています。
- ・学校に行くことは楽しいと思っている児童が多く、友達や先生、地域とうまくコミュニケーションができています。また、いじめの否定や困っている人を助ける気持ちを高く持っています。
- ・ニュースなどの情報を新聞よりテレビや情報機器を使って得ています。

今回の学力調査結果は、全て国平均を上まわり、学力が順調に向上してきていることを示すデータです。また、日々の生活の中で『自立』と『自律』がバランスよく培われていると思われます。しかし、これは、あくまで今年4月での成果であり、それから以降、また、中学校での向上がいっそう強くのぞまれるところです。お子様にとっては通過点で、今後の進路選択の際にこそ、実力を発揮してほしいです。高校入試や大学入試、就職試験も次々と制度や内容が変わる昨今です。常に真の学力とは何かと自問自答しながら、みんなで切磋琢磨してください。

これからも、今以上に地域・家庭・学校間の連携、さらには就学前から中学校までの一貫した連携を強める中で、より質の高い授業や生活指導を展開することで学校力の向上を図り、児童一人ひとりの進路選択肢が広がるような豊かな人間性を育める学校にすべきだと思っています。

※ 平成 29 年度全国学力・学習状況調査(現 5 年生対象)は、平成 29 年 4 月 18 日実施予定です。

